館報

やまがた

8月号

No. 700

平成26年

今月は700号記念号としてフルカラーの12ページでお届けします。

告知板

これからの行事予定

9月6日(土)
　第28回信濃山形水泳大会
9月23日(火)祝日
　山形小学校運動会
9月25日(木)
　山形保育園運動会
9月25日(木)～26日(金)
　鉢盛中学校白峰祭
10月12日(日)
　第66回村民運動会
11月1日(土)～2日(日)
　第64回総合文化祭

お問い合わせ　山形村公民館
TEL 98-3155

2014 夏の想い出 エトセトラ

※雨のため元ゲートボール場にて開催

(ポストカード・グッズ)

(レザークラフト)

(ビーズ&バッグ)

(イラスト)

(薪ストーブ・生活道具)

(スローカフェマハロ)

8月3日(日) 山形村山の日イベント

村のてっぺんにケルンが完成

8月14日(木) 清水寺「天空の夢灯(あか)り」

参道を照らすLEDの明かり

上大池悲願の初優勝

8月14日(木) オールドスター野球大会

(トレーニングセンターグラウンドにて)

7月19日(土) ピアやまがた夏祭り

山すそ

▼祝700号発刊！縁あって編集部員の仲間入りをして、この瞬間に編集部員でいられたことにうれしさを感じながら、今まで館報に関わってきた全ての方たちに感謝せずにはいられない▼部員となり、取材、校正、会議をして、毎号完成するたびにいつも思うことはただ一つ。「たくさんの人が見てくれるといいなぁ」と▼第1号の館報が創刊されたのは昭和25年。今から64年前のこと。今年、山形村は開村140周年だというのだから約半分の歴史を毎月追いかけてきたことになる▼今回700号記念号を発刊するにあたり、何か良いネタはないものかと部員みんなで古い館報を見る機会があった。自分の生まれた号を見ては喜び、写真を見ては懐かしみ、もっとめくって両親の結婚の記事まで見たりして脱線に脱線を重ね、おおいに盛り上がった▼皆さんの手元に毎号届く館報が、家族や友人とそんな存在になっていてくれたら本当にうれしい▼700号もこれからも館報がたくさん愛されていきますように。

平成26年度 山形村成人式

～新成人のみなさん、おめでとうございます～

8月15日(金)
ミラフード館

今年の山形村の新成人は113名（男66名・女47名）。そのうち85名の皆さんが出席しました。

大人の仲間入りとなる厳粛な式典に続き、祝賀会の楽しいひとときを小さい頃からの仲間と共に笑顔で過ごしました。

30秒スピーチで近況報告

神妙な面持ちの新成人たち

記念品贈呈

恩師を囲んで……

カンパーイ！

新成人代表の挨拶

元気か？

情報交換中

思い出のタイムカプセル

こんなの入れたっけ？

風

（敬称略）

おめでた（子・親）

奥原　早紀（サキ）・正人
理恵・小坂

桐原　悠真（ユウマ）・惇
恵里子・下竹田

小林　楓（カエデ）・達弥
美香・小坂

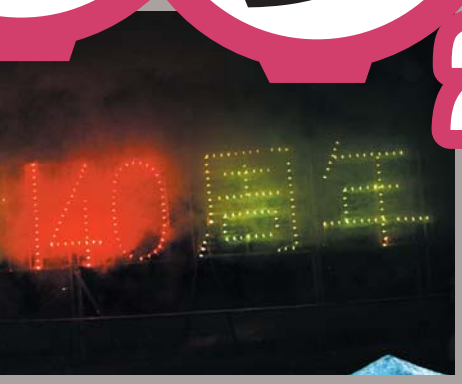
原　虹愛（ニイナ）・和義
綾・下竹田

おくやみ

大池　令子・87歳・上大池
百瀬　春江・82歳・小坂
齊藤　良代・90歳・下竹田
赤羽　ヨシ・96歳・上大池
野口みゆき・102歳・上大池

いずら 2014

８月15日㈮、第30回山形じゃんずらが開催されました。朝方は日射しがみられたものの昼過ぎからは断続的に雨が降り、気まぐれな天気にほんろうされた１日でした。村民の熱意が天に届き、歌や踊り、花火大会まで無事行うことができました。



いいずら可愛い♬

ギャル♥

雨だ～

晴天だったのに…

ご当地アイドル

少年野球

第30回夏祭り
山形村開村140周年

やまっちも避難

山形村の歌姫

少女バレー

そ～れっ♪

美女集団

受け継がれて３世代

700号記念号の発行にあわせて村民の皆さんから募集した「新タイトルデザイン」は、公民館長、副公民館長、編集部員で審査させていただいた結果、中大池区・上手東連絡班の上條明典さんの作品を採用させていただくことになりました。

新しい館報の表紙デザインに選ばれた上條明典さんは、東京のメーカーでデザイン関係の仕事に二十年ほど携わり、一昨年地元である山形村に帰郷しました。

現在もデザイン関係の仕事を営む中、今回の表紙タイトルデザインの募集を知り応募されたものです。

館報については、「東京で働いている間も年に何回か帰ってくると目にしたことを覚えていて、その頃の村の現状を知ることができ、何となくありがたい存在であった」と話されていました。

今回のデザインは、「風に乗る館報」との思いから、村を渡る風をイメージし、空からは情報（館報）を携えた小鳥（ハト）がその風に乗って村のあちこちに運ぶ様子と、村がのびやかに、明るくあり続けて欲しいと願いデザインされたものです。

上條明典さん
（中大池）

公民館報700号の発行に寄せて

山形村公民館長
塩原　眞

昭和25年8月に第1号を発行して以来、64年の歳月を経過し、ここに公民館報第700号を見事に発行することができました。また念願でもありましたオールカラー印刷も実現し、より強く感銘を受けております。これもひとえに村民の皆さま方のあたたかいご支援とご協力のおかげと心より感謝を致しております。

この館報創刊の昭和25年頃は、戦後間もなく、まだ物資等が不足しており自分たちの生活が精一杯な時ではなかったかと思われます。そのような状況の中、山形村の公民館の関係者の皆さん、とりわけ館報の編集に携わっていただいた方々に改めて、深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

さて、山形村は今年開村140周年を迎えました。平成に入って山形村の人口は、毎年増え続け、現在8，800人を超えています。中信平の開発事業を機に村の農業基盤整備が行われ、また大型商業施設等の誘致により、大きく村も変わり、松本市・塩尻市のベッドタウンとして現在注目を浴びております。過去、合併問題やその他、もろもろの課題が数多くあったと思われますが、今日山形村が存続し、繁栄しているということに対し、大変喜ばしく思っております。そんな記念である年に公民館報第700号が発行できましたことは二重の喜びであります。

今年の館報2月号に村議選の意識調査「ザ・検証」を掲載しました。住民380人にアンケートを取り、村議選や村議の職務などについて認知度を分析したものであります。アンケートは館報の編集部員が手分けをして集めたもので、地道な努力や村を思う熱意によって作り上げられたものです。これが村民の皆さんに広く読まれ、また新聞にも取り上げられて話題となりました。このような村の身近な話題をきめ細かく取り上げて記事にし、他の情報誌ではできない部分をカバーしているのが私たちの館報であります。

まさに地域の情報誌として、毎月1回の発行を行いながら、よりよき村づくりのために常に村民と共に考え、手を携えて歩んでまいりました。改めて歴代の編集部員のみなさんに感謝申し上げます。

最後に、この館報が800号また1，000号と続き、村民の皆さまの身近な情報誌として、いつまでも愛され続けることを祈念しつつ、今回の700号発行にご尽力されました関係者、すべての皆さんに重ねて感謝申し上げ、私の言葉といたします。

館報やまがた　陰で支えて64年

～創刊当時からのお付きあい～

信州印刷株式会社　宇佐美　進

館報やまがた700号発行おめでとうございます。

創刊当時はグーテンベルグ以来の活版印刷が主流の時代で、文選箱に一字一字活字を拾い、写真や飾り見出しなどは亜鉛版で製版したものを組み込み1頁ずつ作っていました。そのため足りない文字は活字をひっくり返した「■」(ゲタ)を仮に入れておいたり、「活」のように文字の向きが違ったりと校正にいらした方も大変だったことと思います。文字修正も文字数が変わると段落の最後まで活字を移動しなければならず、午前中から来社しても終わるのは暗くなった頃ということがよくありました。それが創刊号から399号までのことです。

400号からは写植によるオフセット印刷になりました。印画紙に文字を打ち込み版下を作るのですが、修正が入ると印画紙に文字を打ち直し、現像して貼りかえるという作業のため、校正にいらした方をお待たせすることもよくあり、昼過ぎから暗くなるまでかかりました。たまに夕方終わると「今日は早かったね」といわれたものです。これは400号から551号までの話。

552号からは今時のコンピュータを使った方法です。このごろは校正にこられてもお待たせすることなく2～3時間で終わります。便利な時代になりました。

自分が生まれる前からの歴史がある「館報やまがた」。編集部員さんとは校正の場でお付き合いしてきましたが、校正へのこだわりは昔も今もかわりません。一度反省会をのぞく機会がありましたが、記事内容について真剣に討論している姿に驚きました。

新聞を作るということはたいへんなことですが（この稿を書いてみて思いました）、今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

『館報やまがた』ができるまで

毎月発行される館報が、どのような過程で、できあがってくるのかを紹介します。

【編集会議】

次回号はどんな内容にしようか？うーん

当月発行号の最終校正を全員で行い、続いて次回発行号の企画を考えます。

【紙面作成】

割り付けどうしよう？
締め切りに間に合うかな

各人が担当紙面の割り付けを考え、現場への取材、原稿の作成を行います。

【入　　稿】

これらが館報のもととなる原稿です。

すべての原稿が集まり入稿。

【校正作業】

誤字、脱字等ないか集中してチェック

信州印刷様にて、校正作業を行います。

【印刷、納品】

館報が完成です。
お待たせしました。

印刷され館報が完成です。納品された後、村民のみなさんの手に届きます。

えん運命

～公民館・公民館報について語る～

昭和25年に創刊された『山形公民館報（当時の名称）』も今月700号を迎えました。その間、多くの編集部員が館報の執筆に関わり、また、多くの村民の方々にご協力をいただき、今日があります。

今回の特集では、編集部員としてご活躍された大先輩の中からお二人に当時の思い出を語っていただきました。また、創刊号から600号までの記念号（出生欄）に掲載された方々に登場していただきました。これも運命（縁）ですね。

上條　榮さん
（下竹田）

編集部員の指名選出

それは昭和38年（1963）のことでした。当時公民館の主事をしていた、今は亡き前田良治さんから相談を受けたのです。

「編集部員は紙面づくりに堪能な適任者を、本館で直接指名選任したいが――」という話でした。それまでは各分館から推薦された人が、本館の部員として各部の活動をしていたのです。

しかし、館報づくりは企画したり文章をまとめたり、紙面を組んだりする特殊な才能が要求されるので、だれもがその力を発揮することはできません。だから私もその案には賛成で、本館からの指名方式が採用されたのでした。

それによって選ばれた部員が取り組んだ館報は、偶然にも創刊以来100号に当たり、紙面も大きくタブロイド版（市民タイムスの大きさ）にし一面トップに大きな写真を使いました。そのほかにも写真を多くしたり、活字も縦組み横組みなど大胆にレイアウトしたのです。

そして、その年に初めて県広報コンクールに応募したところ、思いがけず市の部町村の部合わせて、総合で最優秀賞に輝きました。以来県で最優秀賞5回、全国でも入選5回という成績を残しました。

どうやら館報づくりの自慢話になってしまいましたが、それも部員選任方式の改革という小さな歴史があったからです。あれから50年余、今も脈々と続く館報づくりにエールを送りたいと思います。

加納孝雄さん
（小坂）

村の進化　ペンの力で支える

わたしが編集部に入ったのは、ずっと昔々の昭和38年、ちょうど100号のとき。

ワープロもパソコンもない飾り文字などすべて手書きの時代。この号から紙面を一変して〝館報維新〟だという時。先輩から、まず「題字を書いてみろ」と言われ、これが即採用されて気を良くし、コラムのカットなど次々と挑戦した。〝山すそ〟は50年経った今も使ってくれている。涙の出そうな話。

最近の「金目でしょ」や都議のヤジのような不適切な表現には細心の注意を払った。一、二度村側からクレームがつき、館長が呼び出しを受けた。今は語り草だが「記事には責任を持て」「背中には村民がいる」「見出しは特に吟味だ」など、先輩たちのカッコいいアドバイスがよかった。

それこそ平凡だった純農村が、半世紀して劇的に進化をとげ、いま村は〝安定飛行〟に入っている。先人たちの賢さ、深謀遠慮もだが、〝館報のペンぢから〟も村づくりに少なからず役割を果たしてきたはず。タスキを繋いできた多くの部員たちには拍手だ。

コンクールの感動や、信州印刷二人の社長のこと、毎号悶えた最終編集の夜のこと。思い出は尽きない。

最後に私的出来事。部員時代、頻繁に役場や公民館に出入りしているうちに熱愛発覚。その時ゲットしたのが、実は今の女房。やっぱこれが一番の思い出、かな。

籠田利男さん
（上大池）
創刊号掲載

「館報やまがた」700号記念号、誠におめでとうございます。

64年間に渡る出版、本当にご苦労様でした。「館報やまがた」は村の歴史、財産ともいえるかと思います。公民館はいつの時代でも地域の人たちを集め、区民の拠り所として、幼い子どもたちを始めお年寄りまで培ってきました。戦後から現代まで本当に長い間地域と共に、ある時は区民の集いの場、またある時は区民の事業の場、そして現在はお祭り、スポーツ、会議の場、趣味の場、楽しみの場として年代を問わず使用されております。山形村が目指す『日本一元気な明るい村、山形村』の為に、公民館がいつの時代までも次世代の人達に継承され、安心で心休まる地域作りの場となることを希望します。

小野誠一さん
（上竹田）
100号掲載

公民館の皆さま、編集部の皆さま、館報700号発行おめでとうございます。

私が編集部員だった頃は、

【昭和】
25年　館報創刊号を発行
　村の人口6，337人
26年　公民館で図書館を開設
29年　館報33号、郡広報コンクールで初入選
30年　村の人口5，945人
31年　村の車輌台数、自動車2台、オート三輪16台、オートバイ9台、牛馬車607台
33年　水道問題に絡み村長、村会議員が総辞職
34年　全村で水道工事が完成
38年　「館報やまがた」県広報コンクールで1位。全国でも初入選。
41年　館報の様式が新聞形から現在の形に
45年　村の人口5，000人を割る（4，991人）
47年　館報200号を発行
48年　開村100年式典を行う
56年　館報300号を発行
58年　人口は30年ぶりに6，000人を超す

【平成】
元年　館報400号発行
04年　天皇皇后両陛下、来村
09年　館報500号を発行
18年　館報600号を発行
26年　館報700号を発行
　村の人口8，809人

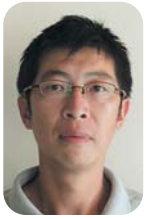
今から20年位前のことなので、当時の思い出話と言われても、編集会議や取材が忙しかったということぐらいで、あれこれ思い出すのに苦労します。

ただ、編集部員は一緒にいる時間が長く、もう一つの家族のような感じでした。

「何を書いても俺が責任をとる」と、いつも頼りになる父ちゃんのような部長や、「それはダメでしょう」って素直で厳しい感想を言ってくれる弟みたいな先輩部員？？。

彼らが今でも元気でいたらきっと今でも飲み会とかをしているんだろうなと思います。

今日は、あの頃の自分たちと館報700号に乾杯。



住吉　治さん
（小坂）
200号掲載

館報やまがた創刊700号発行誠におめでとうございます。私は、昭和47年12月号の200号の出生欄に掲載されました。あれから500号もの館報が毎月発行されてきました。多くの方々のご努力のたまものです。いつのころからか毎月、館報には目を通させていただいています。私の公民館活動の思い出は、春一番スポーツ大会・バウンドテニス教室・村民運動会など。あれ、全部運動系？ともあれ公民館活動を通じて多くの方との交流ができました。村民運動会は、村民参加最大のイベント。これほどの人が集まる行事は他にはありません。応援席では連絡班ごといろんな楽しみ方をしながら一日を過ごすのも楽しみです。これからも公民館活動に参加していきたいと思います。公民館活動も館報も続けて行くことが大切。これからも期待しています。

宮城千鶴さん
（中大池出身）
300号掲載

「館報やまがた」700号おめでとうございます。六十四年もの間、山形村の歴史を刻んだ伝統ある館報発行に携わってこられた方々の御苦労に心より敬意を表します。

現在私は結婚をし、遠い沖縄で生活しています。今年で6年目になります。家の前にはエメラルドグリーンの綺麗な海が広がっています。家族も増え、沖縄での生活にもだいぶ慣れてきましたが、生まれ育った山形村を想う気持ちは今でも大きく、時々ホームページを開いては館報や広報を読み、故郷を思い出しています。なかなか帰省できない私にとって館報は山形村の情報を得るだけでなく、故郷で過ごした日々を思い出させてくれる大切なものとなっています。今後も広く情報を発信してほしいと願います。楽しみにしています。

最後に「館報やまがた」の益々のご発展をお祈り申し上げます。

丸山祐司さん
（上竹田）
400号掲載

館報700号おめでとうございます。何で私に700号記念号のお願いが？と思いましたが、理由を聞いてびっくり！400号記念号の出生の欄に私の名前が…そんな理由で今回は選ばれたようです（笑）。理由はともあれ、これも何かの縁と引き受けさせていただきました。

私は現在、籍は山形村に置いているのですが、今は木曽で一人暮らしをしています。なので、実家に帰ってきたときに、館報に目を通すことで山形村で過ごしていたことを思い出させてくれる大切なものです。

館報700号をきっかけに、よりよい館報が制作されることを心より楽しみにしています。

小口侑茉（ゆま）さん
（上大池）
500号掲載

公民館報700号、おめでとうございます。自分の名前がおめでたの欄に載った500号記念号を見てなんだか不思議な気分になりました。生まれた頃の山形村の様子を楽しく読みました。

私の公民館にまつわる思い出といえば、小さい頃の「しめ縄作り」です。あの頃は父と毎年作りに行きました。その度に「難しい、難しい」と言っていたことを今でも覚えています（笑）。本当に懐かしいです。そんな私は今、高校2年生。時間が過ぎるのが早くて少しさびしく思います。

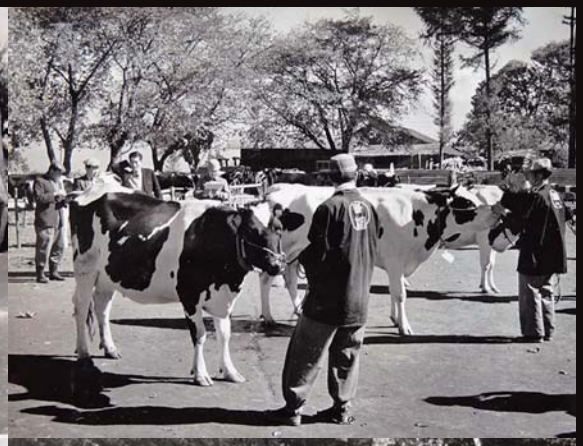
宮前咲彩華（さやか）さん
（下大池）
600号掲載

700号おめでとうございます。私が生まれて「おめでた」欄に掲載されたのが600号でした。「館報やまがた」は、山形村の出来事が詳しくのっていて、私が知っている人や、私の関わったことがのっていると、すごくうれしいです。

やまがたの営み

～館報創刊当時を秘蔵写真で振り返る～

マッカーサー元帥来村！
いかにも戦後の仮装行列。



手塩にかけた牛の品評会。
仲買人の視線が気になります。

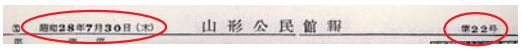
山形を守れ！
力がこもる防火訓練。

運動会での笑顔は今も昔も
変わりません。

緊張の一瞬。それにしても昔から
大きかったんですね。とちの木。

山形産の繭も富岡製糸場に
送られたのでしょうか。

～時代や暮らしは変わっても郷土を愛する心は今も昔も変わりません～



昭和28年当時、隔月発行されていた山形公民館報。7月に第22号が発行され、当然次号は9月の23号となるハズ。しかし不思議なことに9月18日に第24号が発行されています。「じゃあ8月に23号が発行されたんじゃないの？」と思う方もいらっしゃるでしょうが昭和27年から28年にかけては中一か月ルーチンを守って発行されているのです。

幻の第23号は何処へ…。

原因は単なる書き間違い？それとも科学的な見地から時空の歪みに因るもの？まさか！そうせざるを得ない、例えば村の最高機密に関わるような記事の掲載に対して何らかの圧力が掛かり、発行中止に追い込まれた？（万が一そうだった場合、担当編集部員の安否も気になるところです）…と妄想は膨らむばかりです。

館報七不思議

不思議①
幻の第23号
その時、
何が起こったか

全国大会出場報告

全国中学校陸上競技選手権大会

女子800M　髙安結衣さん（上大池）

7月の県大会で2年生ながら優勝、全国大会標準記録を突破した結衣さん。全中では惜しくも予選敗退となりましたが、駅伝シーズン・来年の全中に向け、期待がふくらみます。

力走する結衣さん（赤いユニフォーム）

私は8月18日から20日に香川県丸亀市で行われた第41回全日本中学校陸上競技選手権大会に800Mで出場しました。全国大会では、私よりもタイムの速い人がたくさんいるのでとても緊張しました。私の全国大会の目標は、自己ベストを出すことと準決勝に進むことでした。不安や緊張もありましたが、前の人に絶対について行こうという気持ちでスタートしました。1週目は集団のスピードについていけました。しかし2週目に入ると後半の体力が続かず、最後には抜かれてしまい、残念ながら目標を達成することはできませんでした。この大会を通して全国のレベルの高さを知ることができました。そして私の走りには持久力や筋力などまだまだ課題があることを痛感しました。来年も全中に出場できるよう課題を一つ一つ克服し、頑張っていきたいと思います。

一緒に出場した中村朱里さん（朝日村・写真右）とは良きライバル

全日本女子ユース（U−15）サッカー選手権大会

古河雅さん（下竹田）大久保佑菜さん（下竹田）飯ヶ濵咲季さん（下竹田）百瀬美優さん（下竹田）（写真左より）

7月26日(土)大阪府堺市のJ-GREEN堺で行われた女子サッカー全国大会に、長野県代表・松本シュロスのメンバーとして山形村からも4名が出場しました。一回戦で北海道代表のチームに1対5で敗れたものの、40度近い暑さの中、精一杯プレーしました。

来年も全国大会に行けるように頑張ります。（飯ヶ濵咲季）

全国大会に出場することができ、いい経験ができました。来年も全国大会に出場して一勝できるように頑張りたいです。（百瀬美優）

全国大会ではあまりよい結果を残せませんでしたが、初の全国大会という舞台に立てて、とてもよい経験になりました。この経験をこれからに、また来年に生かしていきたいです。（大久保佑菜）

今回初めて全国大会に出場して、悔しい結果になってしまったけれど、全国大会に出場できたことはとてもいい経験になったので、試合を通して学んだことや見つかった課題をこれからの試合に生かしていけるように、日々の練習から頑張っていきたいと思いました。（古河　雅）

ボールを蹴る雅さん

夏の思い出
～支部子ども会行事～

7/19　下大池

7/26　上竹田

7/26　下竹田

7/27　中大池

8/2　上大池

8/2　小坂

熱く、厳しく、また愉快な編集会議を垣間見させていただき、これまで以上に館報がいとおしくなりました。

副公民館長：小林　佳子
（下大池）

編集部
知恵とアイデア
あとはズク

副公民館長：中村　則光
（上大池）

館報700号に携わっていただいた編集部員の皆さん、大変御苦労さまでした。
公民館の責任者として、深く感謝をしております。

公民館長：塩原　眞
（上竹田）

百瀬　良子
（下竹田）
4年目
部の良母

丁寧な取材、そして品が良い。仕事で石灰を浴びて目を腫らしても美しい。癒し系の声に、安らぎを覚える。

安田　美和
（上大池）
5年目
部の要

５年目の重鎮。校正作業には欠かせない存在。雪道の運転が苦手だったのは昔の話。子どもの送迎のお陰か、今ではかっ飛んでもへっちゃら。

百瀬　悟（サトルA）
（下竹田）
4年目
おっとり系編集部長

締切りもおっとり。Ｆ氏の『悲しいお知らせ』メールもなんのその。部長の貫録を見せつける。取材大好き。あと２年やる気マンマン。

田中　智美
（下竹田）
2年目
〈裏の編集部長〉と書いて『酒の女王』と読む

人気者。みんなをグイグイひっぱる。ひょっとすると次期部長だったりして。資料集めはお任せ。

籠田　隆志
（小　坂）
2年目
サラブレッド籠田

編集部の家系をもつ。誰もが認める100％雨男…でも、シャッターチャンスは逃さない。飲み会の次の日は有給休暇。

曽根原　覚（サトルB）
（下大池）
3年目
アポ取り名人

誰よりも美しい文章を書く。しかし字は…。次期部長狙い。挑戦状を叩きつけるのは今年の12月か？最近、黒竹の地下茎に悩まされている。

Ｆ氏（フジサワ）
（下大池）
教育委員会在席

彼の威圧感により部員は集められる。締切りを守らない部員に早朝から『悲しいお知らせ』メールを送りつけるのだが、実はピュアな心の持ち主。体を労わりながら酒をたしなむ。

上條　雄嗣（ゆうじ）
（中大池）
１年目
館報マニア

超大型新人。先輩たちの手助けいらず。若いころから館報に親しみ、村を愛す。ここで一句。「20代、毎晩渋谷で　…。」

小野　みどり
（上竹田）
3年目
人間ウォッチング担当

誉められると浮かれ、調子に乗るとＦ氏から圧力がかけられる。智美の肩書を奪おうと、只今計画中！

編集と発行　長野県東筑摩郡山形村公民館　　印刷所　松本信州印刷ＫＫ